

町の将来を見据えて

第4回 町議会オープン・ミーティング

富士見町議会は、「第4回町議会オープン・ミーティング」をコミュニティプラザで開きました。今回は初めてメインテーマを設定。「太陽光発電」「防災」「議会基本条例」の三つのテーマを設定。分科会形式で開きました。町の将来像、町議会の在り方を見据える中でテーマを決めました。今回も町民の皆さんから様々なご意見を伺い、有意義な交流会となりました。参加者は全体で27人。この内、「太陽光発電」への参加が24人（重複あり）と最も多く、関心の高さを示しました。

条文に富士見らしさを

議会基本条例の分科会には参加者二人でしたが、活発な質疑、意見交換がありました。最初に、議会側が「町民との関係、町側との立ち位置がどうあるべきかという発想から制定を進めてきた」とし、骨子を説明しました。参加者からは「既にあるものだと思っていた」「基本条例の制定に反対はない」と取り組みを評価。その上で、「何を改革するのか。これまで取り組んできたことを明文化したのか」と質問。



「議会基本条例」の分科会

【議会基本条例】

議会側は「話し合いを続けてきた。しかし、言葉だけでは次に申し送りすることができない」と明文化した理由を説明しました。

具体的な内容については「住民に近づく姿勢が分かる条文がほしい」と要望がありました。「条文自体を住民が理解することは難しい」とし、解説文の必要性も言及しました。

また、「議会としての対応が求められる時代。富士見町議会らしさ、例えば力を入れていくこと、他の自治体との違いが条文にあつてほしい」とし、富士見らしさ、富士見カラーを求める声もありました。

オープン・ミーティングとは

町民の皆さんと議会がともに歩む「開かれた議会」を目指して、毎年1回実施しています。町の当面の課題について、町民の皆さまと議員がテーマ別に分かれて自由に意見交換できる機会をつくらうと、2016年から始まりました。議員はできるだけ聞き手役に徹することや、発言者はお互いの意見を否定せずに建設的な意見を出し合うことなどを基本的なルールとしています。「約90分間では短い」という声もいただき、今後につなげていきたいと考えています。



多くの人が参加した「太陽光発電」の分科会

過去の災害を教訓に危機感を持って

「太陽光発電」の分科会には、参加者のほとんどが出席し、主に、「中学林のメガソーラー計画」「その他のメガソーラー」「条例制定」の3点について発言が集中しました。条例制定では、「自然エネルギーは大事、進める必要性はある」としながら、「事業者は自社の利益のため、景観を無視している。規制作りを早く進めてほしい」と要望。「景観を守るべき町の考えを条例に入れるべきだ」と町の姿勢を問う声もありました。「議会も協力して、規制する条例を早く制定してほしい」と早期の施行を望む声も挙がりました。中学林については、農業者から「富士見に移住して10年。コメ作りを池袋でやっているが、パネルの異物が河川に流れ込む危険性があるので」と指摘。「中学林のソーラー計画を知らない方がいて驚いた。下流域の河川に対する安全対策がなされていない。特に葛窪の『西の沢』地域は危ない」と過去の災害を教訓に危機感を訴えました。このほか、「町の将来に不安を感じる。麻績村の条例化を参考に計画をもう一度考え直してほしい」「八ヶ岳山麓の自然は富士見町の宝だ。このような場所に太陽光発電は合わない」と景観を守る立場での意見が多数ありました。旧小川別荘地のソーラー計画では、「町の文化財である旧別荘がある場所に太陽光発電はありえない」と町も何か考えてほしい」と残念な思いを訴えました。

「太陽光発電」